

[TOP page](#)[資料室](#)[イベント情報](#)[講師を探す](#)[Worker's 広場](#)[関連リンク](#)

## 資料室


[HOME](#) | [資料室](#) | [一般教養](#) | [自己啓発](#) | [貧困は教育の機会均等を剥奪する](#)
[労働組合](#)[労働者福祉・共済](#)[一般教養](#)[社会保障](#)[労使トラブル法律相談Q&A](#)[労働関係法](#)[経営全般](#)[人間関係とコミュニケーション](#)[ライフプラン](#)[男女共同参画](#)[公務員関係法](#)[日朝の歴史](#)[7つの習慣](#)[中東の歴史](#)[ボランティア活動](#)[環境活動](#)[社会貢献活動](#)[自己啓発](#)[生涯学習](#)[外交・防衛問題](#)[資本論](#)[教育カリキュラム](#)[日本国憲法](#)

### 貧困は教育の機会均等を剥奪する

#### 貧困は教育の機会均等を剥奪するという歴史的事実を突きつけた 60年の人生・時間は戻らない

11月26日夜のニュースで、60年前、誕生した病院で、赤ちゃん取り違えによる、損害賠償訴訟の判決が報道された。「裕福な家庭」と「貧困な家庭」という対照的な家庭での新生児取り違いである。

本来、裕福な家庭で育つはずだった訴訟提起した男性は、昭和1964年の東京オリンピックをテレビではなくラジオで聞いていたという。そして、中学卒業と同時に町工場で働き始め、学校に行きたくて自費で定時制高校へ通ったという。学問したくても、とても大学までは行けないから断念したという。現在は、トラック運転手をやりながら兄の介護をしているという。

一方、本来であれば「貧困の家庭」で育つはずだった男性は、小学校の時から家庭教師がつき、高校、大学へと進学、一流企業を経て、現在「不動産会社の社長」という。

両男性の育った教育環境の違いは、努力してもその壁を破れない「豊かさ」を手にすることができない「貧困家庭」の現実を、そして歴史的事実を見せつけられたような気がした。18世紀産業革命後「労働者」は豊かさを求めて自らも「自由・平等」をと基本的人権の獲得へ努力した。しかし、その獲得の時間は1世紀に及び、その間に「富める者」はより以上の大富裕者へ労働者との貧富の差は拡大するばかりであった。

ちまたでは、労働者はバカだからと、真のように流布された。

そして社会は、国家はその貧富の差が拡大する一つの原因には、労働者を中心とする貧困な家庭の子女には十分な教育が施されていない。教育を受けていないがゆえに、知識という情報も、知識を基に「知恵を生み出す力」も、育っていないことに気がつくのである。

「犬や猫、牛や馬、草花に至るまで、人間に育てられても犬は犬、草花は草花である。」人間に育てられたからと言って人間にはならないのである。しかし、「人間は、人間に育てられないと人間にはならない。」インドで20世紀初期にオオカミに育てられた子供が発見された、その子供は人間社会に戻ることなく終わったという。人間に育てられないと人間にならないという確たる事実である。

人間は人間に育てられながら学習を積み、教育を通して知識と知恵を身につけ、能力を開花させ成長していく。だからこそ、20世紀の基本的な人権として「教育を受ける権利」があるのである。日本国憲法にも国家運営の基本として規定されている。

今回の赤ちゃん取り違え事件は、「貧困」という境遇が、教育の機会均等を失くす、そして「貧富の差」を一層拡大させる原因となることをあらためて教えてくれた。

損害賠償に変えられない「本来であれば夢が実現したかも知れない」男性の無念の気持ち、悔しさは計ることは出来ない。すでに両親は他界している。

我々は、「教育を受ける権利」「教育を受けさせる義務」を当たり前として、そのありがたみを忘れているのではないのか。そんなことを考えさせられた事件であった。

(平成25年11月読売新聞朝刊掲載の記事)

資料に関する解説やサイト内ブックマーク、簡単なクイズもできる無料会員登録のお申し込みはこちらになります。

### Worker's Library 会員登録

お申し込みはこちらです。

>>> [一覧へ戻る](#)

傾聴

語り部スキル

🔍 キーワード検索はこちら

🔍 サイトマップ 🔍 このサイトについて 🔍 個人情報保護の取組みについて

🔍 ページTOPへ

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's広場

関連リンク

Worker's Library 静岡で働く人のための資料閲覧サイト  
JAPANESE TRADE UNION COFEDERATION DB SITE **【ワーカーズ・ライブラリー】**

Copyright© WORKER'S LIBRARY All rights reserved.